

## 事業概況



## あすかアニマルヘルス

得意領域において  
ナンバーワンを目指して

あすかアニマルヘルスは「動物の健康と食の安全を守ることにより、人と動物が共生できる社会づくりに貢献します。」を経営理念とし、動物用医薬品事業と動物用飼料添加物事業の2本柱で事業を展開しています。2022年度は、オミクロン株による新型コロナウイルス感染症の拡大に加え、ロシアによるウクライナ侵攻に端を発したエネルギーコストの上昇や、国際商品相場の高騰などによる社会活動への影響が続きました。これらの影響は、飼料費・資材費高騰へとつながり、国内の畜水産・酪農家などの経営を直撃しています。また、家畜衛生分野においても、法定伝染病である高病原性鳥インフルエンザや豚熱が猛威を振るいました。動物用医薬品企業として継続して関係機関などと連携し、家畜防疫体制の強化に協力していかなければなりません。一方、コンパニオンアニマルを取

り巻く環境については、高齢化や検査の浸透などによるヘルスケア需要の拡大が見込まれているものの、国内の犬の飼育頭数の予測については悲観的な見方も出てきています。今後は、高度獣医療の発展・提供体制の整備に加え、人と動物が共生できる社会づくりがより一層求められます。こうした環境変化のなか、私たちは価値ある製品と業界を牽引できる人材によって、動物たちの健康を守りながら、生産者や獣医療関係者、オーナー等、関係するすべての人と動物に貢献する会社として引き続き事業を展開します。特に、得意領域においてナンバーワンになるべく、2023年度も活動を展開していきます。

あすかアニマルヘルス株式会社  
代表取締役社長  
**山口 文豊**

## 主力製品



動物用医薬品 (PA\*1)  
ブリッド デルタ

\*1 PA: 産業動物  
\*2 CA: コンパニオンアニマル



飼料添加物  
L-イソロイシン「あすか」



動物用医薬品 (CA\*2)  
トリロスタン錠「あすか」

## 強みと戦略

あすかアニマルヘルスは、ブリッド デルタ・トリロスタン錠「あすか」に代表される動物用医薬品およびL-イソロイシン「あすか」などの飼料添加物を中心に、アニマルヘルスへの貢献に向けてさまざまな戦略を展開しています。

## ブリッド デルタ→ 強み: 牛の発情周期において注射不要のウェーブコントロールが可能です

「ブリッド デルタ」は、腔挿入プロゲステロン・エストラジオール安息香酸エステル配合剤で、効能・効果は牛: 発情周期の同調です。本剤を牛腔内に挿入すると、血液中エストラジオール濃度は速やかに上昇後低下し、血液中プロゲステロン濃度は持続的に高濃度を維持します。本剤除去後、プロゲステロン濃度は急速に低下して発情を誘起します。本製剤の牛腔内への12日間留置によって、注射不要のウェーブコントロールが可能となり、生産農家の作業省力化に貢献できます。また、飼料費高騰などにより生産農家の経営が厳しさを増すなか、注射不要による経済的負担の軽減や牛の身体的負担の軽減にもつながります。獣医師や生産農家への定期的な講演会、製品ウェビナーを通じて、情報提供活動を展開しています。

## L-イソロイシン「あすか」→ 強み: アミノ酸全体の販売数量底上げに寄与します

「L-イソロイシン」はタンパク質を構成する必須アミノ酸のひとつで、「L-バリン」「L-ロイシン」とともに分岐鎖アミノ酸(BCAA)とも呼ばれています。授乳豚用飼料で不足しやすいアミノ酸で、特に初産豚や哺乳子豚頭数が多い多産系品種へ他のアミノ酸とともに補給することにより、繁殖成績の改善や哺乳子豚の成長促進が期待できます。本製品の市場浸透を通じて、アミノ酸全体の販売数量の底上げを図るための活動を展開しています。

## トリロスタン錠「あすか」→ 強み: 犬にも人にもやさしい動物用医薬品です

副腎皮質ステロイドホルモン合成酵素の一つである、3β-hydroxysteroid dehydrogenaseを阻害することにより、生体内の副腎皮質ホルモンの合成を抑制し、副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)に伴う諸症状を改善します。日本国内に多い小型犬にも対応できるように、3規格をラインナップした、飲みやすい小型錠剤の新剤形ジェネリックです。また、取り扱う獣医師や動物看護師、オーナーが主成分を経皮吸収または吸入しないようにフィルムコーティングし、特に女性への影響にも配慮しています。社内外の連携により、獣医療現場での認知度向上に向けて、積極的な活動を展開しています。

## TOPICS

## 畜水産領域およびコンパニオンアニマル領域の取り組み

畜水産領域の取り組みとして、繁殖用ホルモン剤市場でのシェア拡大を目指し、主力品である「ブリッド デルタ」を中心に各種施策を展開しています。2023年3月に「第4回ブリッドデルタウェビナー」を開催し、計350件以上の申し込みをいただきました。今後も継続して、ウェビナー開催などによる顧客への情報提供活動を展開していきます。

また、飼料添加物事業においては、現在、売上を牽引している「L-メチオニン」に加えて、2022年度に農林水産大臣から新規飼料添加物指定を受けた「L-イソロイシン」の市場浸透を通じて、アミノ酸全体の販売量の底上げを図っていきます。コンパニオンアニマル領域の取り組みとしては、新製品のさらなる市場浸透を目指し、KOL\*監修による社内研修会や学術資料の作成、他企業との連携をさらに強化し、製

品価値を獣医療現場に浸透させます。今後の開発パイプラインについては開示していませんが、これまで当社が培ってきた「強み」を最大限に活かし、動物たちの健康を支える有用な製品ラインナップの拡充を推進していきます。

\*KOL (Key Opinion Leader): 業界において専門知識や影響力を持つ医師や専門家



第14回WJVF (West Japan Veterinary Forum) 出展の様子